磯馴浪 下

和書門
類 二七四〇三
函 九〇
架 一
冊 二

内閣文庫
和書
類 二七四〇三
冊 二
號 二〇二
函 一
架

内閣文庫
番號 和 27403
冊數 2 (2)
函號 202 43

国立公文書館
National Archives of Japan

儀の浪巻之下

明治十二年購求

帝国図書館蔵

帝国図書館蔵

帝国図書館蔵

仙雲閣書

五月雨は世俗定家の和歌式とゝのゝ
ゝ右大臣は定家世孫なれとゝ世道に
定家秘蔵の弟子なれとゝ右大臣より
ゝ定家の書の奥詞なほ序ゝ
大和の世道ゝ深く安きを仰て加ゝし世
ゝとゝ工夫をべし必おきり深れり安きゝ
ゝゝゝの場を出でなれるゝふゝゝ
又欲て出ゝとゝ愛ゝ遠ゝ行ゝあゝ

たしなくて三条家の歌を

白ふよりまさる花なく山ぶきの黄色の花を色の中にぞ

山ぶきのはなの外にもなく山ぶきなどかりうるおもを

かりぶきもなほふかぶかぶかの事外のこゝろ面白きなり

なほそこまねのなりもたてていあり上手の仕業なり

道を流の三つよ

我ゆゑにかはまり水ながれぬふまり池の行やなを

山ぶき池の菖蒲の影もいと出来の右同

三条家のこゝろ

天のつゝみやりくはかいなるもあり一つのこゝろを月の光にあらし

道を流の歌

流きけとあをさかりの三条おのゝ乃三のこゝろひすの家

山ぶきを秀逸ばり面白けをあをはるもあり秀逸と

いとゝ月をもとつゝ面白しいもあるい山方武家の

雨者を名を命の家ばりしとゝふへし出来ものと

いふ物はさとりもせん面白くこゝろ秀逸なり

てゝ出りしゝ場をめをとゝあり

あひきはの山吉のおはをとのふくしをひゝかるゆん

とゝふの実をとゝだ和も面白きこゝぬあり上ふ

秀逸とゝへたゝをさてこゝ山をとゝ書ゝどこゝもかく

義情も有ふり侍ども書送の作法はおなじ事乃
出来事道理の次のおもしろ歌と添へたふ行ふ
面白くあかりある風ふんまづまづみかりの歌
源氏物語のかたりふくしてそへ侍べき中
もなくまとしたりまりとんまつりまりあり
六月伝ひ侍りしくしくたかの社をおきて添く
あれよ仰てかしこしいふ人まつ作よりある歌
語近人耳義憤神明也とてもこの言葉乃
毎月抄よ後鳥ハ品ハおさふらかとてやてあ
ふもそそとの歌と秀逸とおいまりくやとと

ふもこの言葉の同じ事後鳥のおらもおさふ
抄とまとおもふ歌ハ明やてかやのひまとつ歌ふ
のあるとそとまとくしまとまとあかとらたありや
又ふ名序と夫和歌淀其根於心地繁花於詞
梅也とあり其梅とはいとものいふあれ完結
ふとかとしまとくとと合ふゆとたふ大あるとまとかて
又梅河歌　曉雪
白雪はあふつもるもはまとあるかの雪よあくなり
とふふ雪花を流の風梅集に入ふらべきとて無
の雪ふくとをかくる梅はちやふんとは垂に入てあ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

高野より紀ノ井の手を経て熟ノ坂を作りて之を尾の西面
を登りて東へ下りて入四面高く聳えたり
ふもとに熟ノ坂と出でたり
成て一を個ひ
を結ぶこと一年ノ工夫なり二家ありて中程
夫れぞれ四種の場事不可思議なり
大方はやむべし其他の熟を分て
又欲と乗るに神のいまだ定まる事
歩行にいたりてよみもあるべきなり
事なくなりとんく其他の熟をみるべし

いろ高たとへ出来たり空を好く先を作る
新たづの海を
中ほどにいたりかとはかりきと和歌
世界を一向我等はみとる事なりてよれば
世りもみ陳し仕りも遅ま
同九月愚承 開部
なかりかへ一ありまの中ぬ 山ほくまん
とりつかとなるとて一ハ作之世ノ字入ぬ
ゆくらにまて移とて入とて入とて
いやくにたゆまぬ

の中ぬいたる板にてのやうなるものをあてゝ
よりとりつかぬ時はまきあをやぬとらせて
さてゝあをぬとしよりこゝへ
ゆるやかにかけつゝ新今てゝのきうまの
山中そのつゝの板をくりぬいてえをうたて
山をたてゝつしきたるやうにやうりて
りへきをくえりやでありやうにかけ一向ふれ
もそのはしくの仕をつゞをうてゝ事のある事なり
ををる紅の房をさゝてゝ紅のわまりをえてゝ
やきとりあるとかけ一家の

くしふの結をゝ掛ほのとゝ掛ふさふ小をつをの心
とりつをゝ波をををくくふ山掛をくもつひあやを
笠をさを掛の先を結の人をかはをいかををひ
紅の房を掛乃河もつひ掛をて掛をゝ掛をり
まををまを方式ハりをを一向を河を光ゝあをを先
掛をあをくくをいやあい笠ををををのをつひ掛をく
右のををはををみ掛をかをくの掛をのをををあをを
掛を掛掛山をあハかくあをを也を大体をををををを
ををふをををををを付をを部をハ掛行掛りの掛を
をををををを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とゝまりて修行するなり此山寺の方にてもなのりてもあるべし
ゝゝゝ

ちゝ有る遠ひ拙ふ所とも大ふる遠ふ人ハ用ひ拙ふ
なきものしなり時世くゝよりまゝ諸ともに懸ぐり慢我
せぬくゝ之りと者ゝこゝぬゝものあるいをゝ思ふくゝよりまゝ
ゆゝき者の此月よりもゝ細ゝも人ゝよりて毒ゝ金ゝ
ゝゝものゝ人ゝ酒ゝ也ゝくゝゝ者ゝ人ゝ人ゝ気質
ゝゝりて善ゝなゝ
ゝゝ我ゝ有ゝ傍ゝ
此ゝ人ゝ拙ゝ拙ゝ者ゝ
ゝ拙ゝ人ゝ人ゝ人ゝ
命ゝ人ゝ者ゝ此ゝ

ゝ者ゝ人ゝ時世ゝ
ゝ人ゝ者ゝ
ゝ拙ゝ者ゝ
ゝ者ゝ
ゝ者ゝ

みるもとのかへ〜あまり同ある所をたてぬむかへ
あるを是いはんとさとる市中に居をやりて
まかりかへりそれなる世界よりまれなる事かな
けてそうしきあるを極楽とうたへ
日本の行基菩薩法師我国に生のこと問ふ
答ていはくもむかしいふ仏世のあるとうしていはのの
なれい世をそらしといひうまれて人いてそうくきも
僧いはくのくとものこと
きてもとまりけ菩薩あふ一をかけ樹下
解といふものの中にあるこの

けるんをかもふれ極楽の西北風ふけ秋のこと
といふこと叶ふこと言て如来の事をあまて
源をらんとする仏をもとめ供養をとうとまて
きるんほうとの極楽より西北風ふけ秋乃
世界を吹へ〜と程なく仏にちんとく方憍尼
方角をさとへきもとみるを菩薩はなと入る
本のまとりをの谷の宮もいさりを西へあまのりを
はきの程なくぞうとのん極楽の源なて京本極制あるこ
院御諸歌も行まりはは諸歌とあの宮こは行
らんに文の宮うとて行をふひう仏はとて彩色て

引[illegible]へ[illegible]

同十九日伊[illegible]上[illegible]

時雨[illegible]

[illegible]の[illegible]の八[illegible]

嵯峨[illegible]当無[illegible]字[illegible]還[illegible]端的嵯時[illegible]盡[illegible]

即心即佛隔[illegible]里風吹馬耳[illegible]野梅香

佛頂[illegible]師[illegible]

[illegible]

[illegible]

順徳院　[illegible]百首中[illegible]射とあり

[illegible]

世界製[illegible]

千載
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

千載　後鳥羽院　一人　[illegible]　一人　[illegible]　一人

寿保元年十月廿日[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]社禮を[illegible]れ[illegible]の三遍唱[illegible]と
[illegible]しかれども[illegible]神の[illegible]
[illegible]乃[illegible]と[illegible]
[illegible]一[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
又[illegible]
[illegible]郷[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]年[redacted]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あハ共事理を能とまりて無一神なれば事無き
而とも人行てをを心を使ひ[illegible]と歩しくとあのようなるよう
外のことに大ていとも人のん人を何き而を歩し
去ばてをを能るとしとするなく奥あるなる
能く座より何き起あるをめまりあくなくなりと
よくある道理あり何き様なりなどと問ようなる出さぞ
ををを心をと事を知なるなるなるも力と入をん
あり歩し人をるをりひ歩すしりを病ををりていい
自分ふ収とあり歩人をん付てりひて物をと後ひ
歩しくをんより和を外よあり大を和能をるて

いをを抜く夫をい行あを品をい欲よを何の志を仲
ばりへいふあ通し号をけをんてををたくい国と
治ふを事を何を能をと言能をあるを治ふ能
に能で治人をを中治ふをを人合を
よをあ何をあい何を単花を仰の場をありて能を
海ををを常の和より能をいをあをを治
事常を大事を古人を言ある場を勝んで事を所物
のを迷あるを常を仙を深てあるをを
事を能でいをを中治人をを人をを仙いを
能事ハ出をあ抜く夫能を大概を事をを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中院通村ハ御所出仕の時ハ[illegible]

人[illegible]碁[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

よる板のうらとひとつにくまなきの事板
のうらにれいをしるしをかくこと
板をあらためるとき力をくわへてなで
ものあるときは力をくわへてかくこと
ものをもちゐる時はくるくるとまはす
事なかれ板をちりとくわへてこれを
板にあるに目よりかるくすきとをす
やうにとみるとき中ほどをうけ
ものをもちゐるとき板
をもつといふてはつかのその力ほどのもの
をもつて人の目をもつてあむ板
をあてるこれをあてるこのあしらひ
夫れ板をあるべきの

ものをもちゐる時板をもつてのちに
ふとをかけつり板をもつて人の目
入るものをもちゐるべきなり
をもつてはかるべきなり
板をもつて入れてみるものとの
中ほどをもつてのみとをもつて
をもつて力をくわへてはかるべき
ものをもつてはかるべきなり
板をもつてのちに
居さしの田のをさをはかるべきなり
めをもつてはかるべきなり板をもつて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

却て是を行ふと云ふ事なり眼を閉じて
其人の行ふ事をひとりひてりあるいは此と云て
同じ二百位の事とよむ人も此のごとく見人も
せきをせて云ふて如何ともいかなる事をしり
御所のもとに結ぶ所の月知人を相手
御所の清一郎まこと人なりと海人を
知てよくよくよくして人を待しるくはあるべき
あるべからざるべしと
同じ十七位の中もふくしより四分にて三美年
に同じ年あるべき中なるべきにて人をして

人のこころをとりて[illegible]
[illegible]
[illegible]

白絹一のあるを倫西寺に付き給ふ大師
の御書三帖の内の壹帖ちとをなし佛壇の内に
さらひ奉る御白絹に四月三日
三代集より月ごとに付申すべき
四月十七日より毎日夜半下まで
三十人余りて三代集四帖
決めて時ひとし三代集
うたいをんの事しる所書むこ
にあるこの四帖を詞にあるを大師
三代集のうたい中に何れ
かこの歌なしとも

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]佛神の[illegible]
[illegible]
十一月廿三日　行中[illegible]
河　二条　三つの稲　稲の[illegible]
大神宮御法楽千首元弘四年九月十三日

詔書　院御製

みたのの[illegible]の江はまくさのみつくら
[illegible]一首[illegible]
清[illegible]年号行年何月日[illegible]
何の[illegible]御[illegible]一首の江のまくさ

[illegible]江のまくさ[illegible]
奏慶　[illegible]
[illegible]の扇　[illegible]月[illegible]
日[illegible]　七夜　院御製
[illegible]
[illegible]
[illegible]
日　伊勢　日
[illegible]
天[illegible]天神[illegible]

日 松尾

松尾の社より参詣まゐるべきもの

寿星祝

南極の寿星の為にまつりをなす

中二月四日

陽石陽口（コモリクチ）

こりくの口とかくとは

[illegible]

[illegible]

[illegible]

所所の山水を詠うて後まで歩いて来た天
竜寺に行て問のるいかもかまつた 所所へ方の所後ふ
ものと思ふ伴の人とも又後れかねてあるぬいるぬ歩く
ものさたりしく人かつゝ此道の宜かるもめぐりきりの
用ふ事作いうと自分よりまぬ人のひとりやうて歩まむ
ものゝどんまえてゝ山ふうう岸もさう後ふとてすかりと
山中大ものとのいより夢もて来るものとうく出ぬ乐の
鴻の巣とかいとの事ゝ多も出来りてのち国入し
行ちう拙かまふくうと山中中に立ちもまんがい

つまでうくまよ入るあるし一そ姫の江の浦のかちく浮
しまとりの沿わ孤と古ものもてうきまくうきを沿を
まゝ入りうをきてうや
姫の江の江鄙とよをたつちうきさて沿の波の帰ものう
をもてきをえうう
用ものとあ三その波九今うの拙よりつるもかうし潮沢
うく今三の志ゆり拙ものきく一ものもまびつくうとや
うもうのうの拙ういうれ山ものもて人くうきりて
うまりと拙ものを拙ものを沿くうもゆあいうるも
ハうく山方并ものハ志国生ものもゆ拙れうでもゆぬうし

ものゝ言ふ度毎にすぐれて聞えぬ事
実りの力くうと言ふよりまれ
にてこそ世界も治らんよりまれ
なんぞ御まゝにならぬ場もあるべき
なり言葉よりまれぬといふことの
もつとうつくしく只一言いつて
まあいの場までもつまあ人をいつて
なつてこそ一あるものゝ心別のこゝろ一言
ものゝと思ふまでもなる
中まいて仕合ましもけたゝかく
ものゝ

ものゝ言ふ度毎にすぐれて聞えぬ事
を見てたゝかるゝ言ふ
のゝあみいふ別にたゝかべきやたゝ
ゝかのゝ井は高くんとゝ
行ふこゝを助けざるゝ
なり思ふまゝよりつゝ
行ゝゝ邪とゝるゝ
実は一まいゝあいゝ
のゝより入る人もわ
まゝ

げりまたおのつからせんとしたるみの事ありしと
親ゐわたりまつよりまゐあとのし教をいつくしうつ言葉
を聞あてる歌をよいなりあるけ方或ゐうと是家ことを
うたへ百をゐ一首ゐ作てやりてやるうたに
あるまゐ歌を多海人く作るのうたはけ月つ年の言
歌人ゐうたゐ作りゐ歌を歌一をもゐ歌
物ゐ家毒ゐうたうたゐ方ゐ物ていはいうたうたと
其ゐまくいをを思ゐく実よいいうたゐ方ゐとゐゐも
はてゐ世ゐ大ゐる毒ゐ作ゐのせゐふよけゐうたゐ乃
ゐた場へゐりゐてゐゐ作ゐ門歩ゐ

ゐ世ゐ服ゐ多海ゐ毒ゐ世ゐ世ゐ毒ゐ世ゐ世ゐ世

[illegible]
今長方欽ゝ　近人[illegible]の[illegible]新兵
かたくなる[illegible]里の[illegible]
[illegible]
近ゝ[illegible]人の[illegible]
[illegible]
の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

よりて集す[illegible]
[illegible]
後水尾院御成敗[illegible]
[illegible]
[illegible]

和泉の国のよりまれさるよりの地まりるで
御雲路をて内の方中流をみよ付方をと考りり
まの行ようりるはくこれいよりの物よくと細工奥之
人をもくかしものうたく其の数ともあまり四月分のあ
まくはてをあれよあるとりまりまりさて大概
の人乃なる事ましていなし御大命ともたくと
ふるれよりく衣口いしく人くと
月中二ちをたるまくへうを治ちどりをとを亜あ
あまり面白しあきは高をとりのうくよりをいう
はをもへきをとはをくきをくをを方

光くてら新の人くみ風をけいよりをなくこのかくとび
ものあれはるはちくり心はすををてくやはくてるま
くをよくしひあはせくをみはをくさくを拝ちる事は
かくぬくくしあをもを奇のくをて千島のよれ新くを痛
世はあまりを拝よくを奇くをいいれきくを兵隊りの課
ぐりををくをふれはよいしかるへくをくをあまりをどりぐ
をくるあくを弁くをよりくをでは新はいしのくるあるし
山拝かくかりの奇くをあはくをを人会をくをかをぐ
の光
拝言あくをものくいいをくいいをくはをせくをくをくをの
仕業をいしくるあをれども事ゆくをくをのあるやく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

相ゝかとのき上おろすかたち
山ゝ海の島々なども数のよりまさりてこれいふ
ものゝ山にはるゝ事ゝ
たくさんなりしかりつゝ欲い只意せづん
ずるの事ゝ切りつゝ
さるかうちれとよりまれあるし
上つゝ様方ゝ所ゝ
かゝ所中流く　作ゝかゝ
ゝ所ゝ所ゝ
よへゝ方中流ゝ作ゝ
高麗ゝ

事い古来ゝ
ゝ代の　御製ゝ方ゝ
作ゝ泰ゝ
ゝ家ゝ
ゝ人ゝ
和ゝ
いゝ
ゝ人ゝ
ゝ式ゝ
歌ゝ
ゝ
ゝ

一人仁徳天皇の御ときに高麗人まいりて
やまとの国にすまんとおもふ人あらば
たのりまうでよかしとわれ〳〵にいのれ
ばなにのまうしとかいふ流れ出たる
ものあり人をみるに角のはえたる
ほどの人なり谷のそこにすみて
ゆくへもしらずなりぬ
いとかしこきかみなりとてこれを
いはひまつりしかの谷をばつのの
谷とぞいふ
ありけるやうとかやとかの高麗人
いとかしこきかみなりとてこれを
ぞいはひまつりける
とかやとかの谷にすみてゆくへも
しらずなりぬ
とかやとかの谷にすみてゆくへも
しらずなりぬ
とかやとかの谷にすみてゆくへも
しらずなりぬ

なりもいかばかりそもものうたちちりあるかなや
ちりぬきしあるふるいしそり
日ゆ千る人よりて弱をうを恵の卵わるりいてはよ
仏中ど恵のすもるる人合点ゆあるとちはうたれい
いうらいてくれ　御迎言仏中ゆ中のまのとよ
ゆりとうけ立ちるりんとうるい物ゆ人ゆ恵うを
御一男安為泰のうしはうを恵の情うるの仏中ゆを
佛と弱ゆ中ゆ入いゆ仏ゆ中ゆ身ゆ入ゆとゆ仏人ゆ
とゆ一ゆ中ゆ立ゆ恵の立ゆ情ゆ立ゆ立ゆ立ゆ
情ゆ人ゆ恵の情ゆ立ゆとゆいゆ知ゆいゆゆゆ

ちくよりを為ての智者ゆ乃ちよ恵の中の乗逸ゆ
子信ゆ立ゆんゆとゆ人ゆ信ゆ立ゆ立ゆ
ゆ中ゆ立ゆ作の場ゆ立ゆ物ゆ立ゆ作ゆ立ゆ
二月ゆ十二ゆ為ゆ大ゆいゆゆゆゆ合点ゆ立ゆ
中ゆ後ゆ立ゆ立ゆ立ゆ合点ゆ立ゆ立ゆ
立ゆ立ゆ道ゆ立ゆ道ゆ立ゆ立ゆ立ゆ
立ゆ立ゆ立ゆ為ゆ立ゆ立ゆ立ゆ立ゆ
立ゆ立ゆ立ゆ立ゆ立ゆ立ゆ立ゆ立ゆ
立ゆ立ゆ立ゆ立ゆ立ゆ立ゆ立ゆ立ゆ
立ゆ立ゆ立ゆ立ゆ立ゆ立ゆ立ゆ立ゆ

二月十五日にて[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一向と書かせたてまつりけるいにしへの物がたりの
事よりはじめてしるしをかれたる物をやがて
一向よりはじめぬ人よりはその人にあらずとぞ
弘長元年百首歌たてまつる時　月　為家
ひさかたの天の川原の月をみてこよひ幾世
山ぢとぶらの月にあくがれ又はいづくもかはつる
たくすつるたてまつりたてまつるよりはじめ
まつりあはせられたる人々は何の事もなくやすく
見ゆれども歌ことばつゝしみ命の二字に物をかけ
たてまつりたてまつりたてまつりたてまつりたる物

なるべし三首とおもひたてまつりて少将原の家いまも
よくたかさかの細工とをさいふ物なるべし　劇しきもの
物のあやこまやかなるをさきとしたるをさきとして仕立
たる細工ここもとも　仕立へこの家に大きなるのこの
やうにとおもてをさる細工にも一百人ばかりぬ
物しに長寿なるよろこび物をまつりたてまつるの例さる
とぞ思ふやうにしたてまつりて少くだりの家に大なる
ぬぎ敷の織物とをるやうにつゝむふくろのやう
なるものをとりのけたるやうのものをとりのけ
ふくろ一向に織物をもちあつかひ乃
ふくろ一向に織物をもちあつかひ白絹のやうにあり二重

[illegible]
三月三日より通行止ル
中ノ町 御通行止ル通村を代ル代ル通行ス
[illegible]年 院作ル通行大ク[illegible]
[illegible]通村[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]通絶[illegible]
[illegible]人[illegible]一旦[illegible]
[illegible]二階中[illegible]通絶[illegible]
通村[illegible]二階より[illegible]

[illegible]通村[illegible]
[illegible]通村[illegible]
[illegible]
[illegible]ヤアハアと[illegible]
[illegible]二階[illegible]
[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]通絶[illegible]
[illegible]二階より
[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan

[illegible]

[illegible]

[illegible]

御面言めてこゝにかくこゝにかくこゝにかく

国立公文書館
National Archives of Japan

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan

やうにて二十五日に行ひ侍りて
一枝をもとめたるもとめまほしかりしかの
ものしたる事ありいかなりしてまことに服あらひ祓
みて四月にてこそまゐる拙き手にてかうの書とて
書ありけるをもとめ侍りけるこそ何ともひがごと
なりけれとて解あらんと
十五日の酉時ばかりに月次の日忌のものいみ
所にはべりしかば時ならぬ人のあまたまうでしかば
物忌のえとめてこの忌のよ
我はうちうちにてものいみする人やとまりたん

とうちうちにて人にあはぬ女房のうへ女の欲かしてい
いとうとましかりけるものかなかかるうちうち
さまたげなる人の女なりけるこそ
くるしけれ物のけ所にはべりけるこそ
うしなひ物のけ一日成りて四日成りて
事ありけるものの所の人の所
寄語志
やはらかにものいひて人の伊
世をとりなすこそ
味なきことにこそ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あをかくのらくはしとすもよみやまたとの
なまもこれこそはたとまもひ彩言ゑ傳せること

機の張巻中段

ゆきはとちらはきむさはとちらはきゆ
ゆはあらしもむんらへと
はやもとやらもしやしふはあらて
はらしるもはとまはへ
ともはふものもはいはは月のは
てらしらかのらてつら
出はつえて機の張をえつまる

ものと大坂近辺やしきおやの
ふるさとにはるばるのぼりて京
和のうしろ姿なれば国の文こう京ふ
なれどもかつてせちきふの條
のやうにかなりたてりもて
まてつんきてこうとう出一ふる
つてあをよりつかつ一ぬるふる

きてつんもてゆく中に京ふる
おかもの物しるおかせこと
えるこうとしこと三ふる年をかう
こうれかつんしるかつ中ふる
ぬきふるの元のこうこうれる
てもうれ元の見れきこせこれる
こうれこうつきしこうれかこれる

もいまへかちうへきとうかる
さしゆめもハけもちうたさふと
ものとうとうとうとうもしうと
をかんとけさしゆうえんをつ
ふかうとうへるとかうとて
みちひきをへちきむとちもい
とうとうとうとうふかうと

てとうとうとうとうとてん
てとうとうなをけふとうかのを
うおちけうけうしうしうしう
ひをのとうへるふてまわしのて
らかうかうきるゆうをふうてう
しおきつるうおかういうをやう
てけしうとかきふとうとうへ

内閣文庫

てらべつ

たかをかきょうしょ

内閣文庫

皇都書林

長松堂大路次郎右衛門校

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan